

## 1.神戸市立博物館(旧横浜正金銀行神戸支店)

昭和10(1935)年竣工 設計:桜井小太郎 施工:竹中工務店 構造:RC造3階建 地下1階 ※国登録有形文化財

戦後、横浜正金銀行が解体されてからは東京銀行神戸支店として利用されます。その後、市の所有となり、昭和57年に一部増築し博物館としてオープン。京町筋に面した正面に6本のドリス式半円柱が並び、その両側にマツブな端部が張り出しています。

また、他の側面には壁柱を廻らし、全体的に古典主義様式の意匠となっています。設計者は、丸の内ビルディング旧館の設計者として知られる桜井小太郎です。桜井は明治29年に英国に留学し、日本人として初めて英国公認建築士A.R.I.B.A.の称号を得たことでも知られています。

この横浜正金銀行神戸支店は桜井の引退直前の作品になりました。

神戸にとっても、これ以後戦時色が濃くなり始め、明治以来続いてきた様式主義建築の最後を飾る建物となりました。

## 2.旧神戸居留地15番館

明治13(1880)年頃竣工 設計 施工:不明 構造:木骨煉瓦造2階建 ※国指定重要文化財

旧居留地時代からの唯一の建物として、神戸で最も古い「異人館」でもあり、日本で最も古い商館でもあります。初期にアメリカ領事館として使用されており、震災後アメリカの公文書館で明治19(1886)年当時の写真が確認されたことから、震災後の復旧工事に役立てられました。

木の骨組みの間に煉瓦を積んだ木骨煉瓦造で、南側の両端にペディメント(三角形の破風)を付け、解放的なベランダを持つコロニアルスタイルの洋館です。

居留地時代の洋館には、このようなコロニアルスタイルのものが多かったと考えられます。外壁はスタッコ仕上げで、軒蛇腹、胴蛇腹を廻らし、東側外壁は石積み風の目地を持ちます。また、内部では玄関ホールと階段室との間にあるイオニア式の柱のうえにアーチをかけた仕切りが特徴的です。

## 3.チャータードビル(旧チャータード銀行神戸支店)

昭和13(1938)年竣工 設計:JHモーガン 施工:大倉土木 構造:鉄筋コンクリート造4階建

2層分の高さを持つ1階と2、3階が胴蛇腹で2分されています。1階部分は様式建築の作法に則り、5本のイオニア式柱と水平部材によりオーダーを構成しますが、2、3階の開口部の装飾が無いことや、柱の上の壺飾や出入口上部のペディメントも彫りが浅く、様式建築の重々しさは無く、基本的に軽快な意匠となっています。

## 4.旧居留地38番館(旧ナショナルシティバンク神戸支店)

昭和4(1929)年竣工 設計:ヴォーリズ建築事務所 施工:竹中工務店 構造:鉄骨鉄筋コンクリート造3階建

デザインは南側正面にイオニア式の円柱を4本並べ、両端には目地を目立たせた石積みで引き締めています。

東面は角柱の付柱が7本並んでおり、アメリカンボザール様式を踏まえた、まとめられた建物となっています。

## 5.神港ビルディング

昭和14(1939)年竣工 設計:木下建築事務所 施工:竹中工務店 構造:鉄骨鉄筋コンクリート造8階建

戦後GHQに接収され、コーベ・ベース・ヘッドクォータズ(神戸基地司令部)がおかれました。内部には、当時のものと思われる落書きがいくつか残されています。

周辺の様式建築と異なり、白い石張りであるものの一見目立った装飾は見当たりませんが、

1、2階と7、8階の間に控えめながら胴縁が廻り、古典主義の特徴である基壇・胴部・頂部という三層構成をかうじて保っています。

南西角にある塔屋は、アメリカの摩天楼の意匠につながるアルデコと呼ばれるデザインに特徴的なモチーフのレリーフで飾られています。

## 6.商船三井ビル(旧大阪商船神戸支店)

大正11(1922)年竣工 設計:渡辺節建築事務所 施工:大林組 構造:鉄骨鉄筋コンクリート造7階建地階付

設計者の渡辺節は、この建物の設計に先駆けて欧米を視察し、特にアメリカの高層建築技術に影響を受けたと言われています。

建築様式は、アメリカンボザールと呼ばれる様式を踏まえながらも、外観に古典的なオーダーを用いず、

本来柱頭があるところに陶製装飾建材によるメダイオンと呼ばれる装飾が施されて、簡素化が図られています。

## 7.海岸ビル(旧三井物産神戸支店)

大正7(1918)年竣工 設計:河合浩蔵 施工:竹中工務店 構造:鉄筋コンクリート造4階建 ※国登録有形文化財

当時、第1次世界大戦の影響で欧米資本は一旦疲弊し、代わりに大戦景気に沸く日本の海運・金融・商社が旧居留地にも進出してきました。

設計者は神戸地方裁判所等を設計し、神戸に事務所を構えた河合浩蔵で、相楽園の重要文化財の小寺家廬舎も河合の手によるものです。

全体としては様式建築の構成となっていますが、一方で欧州で当時流行していたセセッションの影響を受け、装飾類の彫りは浅く徹底した幾何学化がなされています。

カーン式と呼ばれる特殊な構法を用いていましたが、震災によって半壊、当初の石材を利用して改築されました。

新海岸ビル 平成10(1998年)竣工 設計 施工:竹中工務店 構造:鉄骨鉄筋コンクリート造15階建

## 8.同和火災海上ビル

昭和10(1935)年竣工 設計:長谷部竹腰建築事務所 施工:竹中工務店 構造:鉄筋コンクリート造4階建地階付

旧神戸海上保険ビルで、合併後名称を変更した後も自社ビルとして使用し続けています。

簡素な中にも1階から3階に届くアーチにロマネスク調のデザインが取り入れられています。設計の長谷部竹腰建築事務所は日建設計の前身として知られています。

## 9.日本毛織ビル

昭和12(1937)年竣工 設計 施工:竹中工務店 構造:鉄筋コンクリート造6階建

アメリカンスタイルのオフィスビルで、「コ」の字型の平面が特徴的です。

当初、外観は1階が御影石、2階以上が乳白色のタイル仕上げでしたが、タイルの剥離を防止するため、2階以上はカラーアルミ板で覆われてしまいました。

## 10.日本真珠会館

昭和27(1952)年竣工 設計 施工:兵庫県営繕課(光安義光) 竹中工務店 ※国登録有形文化財、日本のモダニズム建築100選

一階の黒御影、二階以上の乳白色タイルが建物全体を印象付け軽快さを与えている。

室内を太陽光に出来る限り近づける事を第一に考えられ、4階(南面)にある高さ2.5メートル幅27メートルの連窓が設けられた真珠交換室は、現在もその役目を果たす。